

体育大会 始動

第79回 羽幌中学校体育大会 6月7日(土)開催

今年の最上位目標 keyword
「主体性・思考力・協調性」
を意識して、イイ体育大会を
創り上げよう!

6月7日は、ご家族はもちろん
中学校にお子さんのいない地域の皆さんも
お気軽にグラウンドにお越しください!

春の連休が終わり、今年も体育大会に向けて校内が動き出し、活気づく季節がやってきました。

5月12日、体育大会に向けた集会を実施しました(写真)。集会では、担当の山本教諭が全校生徒に今年度の体育大会コンセプトを説明しました。

一つは、今年度の学校の最上位目標達成を目指して頑張ろう!ということ。もう一つは、誰もが運動に親しめるよう、何かしらの種目を選択して選手として取り組めるようにしたということ。この2点を強調していました。

子どもたちは説明画面の見えるところまで動き、学校目標と大会の目的を確認していました。どの種目に出ようかと思いを巡らせている様子も伺えました。

大会の運営では、3年生を中心とした実行委員会が主体となって団体種目の細かいルールなどを考えるようにします。また、係では誰もが活躍できるような多様な活動を増やし、子どもたちの協調性を高めつつ、主体的な活動を促すような場を意図的に設定します。

大きな行事が近づくと何となくワクワクしてくるものですが、体育大会については、必ずしも全員が楽しみにしているとは限りません。中には、運動に苦手意識を抱いている子どもがいます。そのような子にとって体育大会は準備も含めて、ストレスを感じたり、自己肯定感を抱きづらかったりする行事だと認識しています。

かつての体育大会は多くの中学校にて陸上記録会からの流れがあったため、運動の得意な子だけが満足できる行事であったという実態も否めません。やがて、その内容にも変化が表れるよう

になり、陸上競技に限らず、みんなで楽しめる団体種目が増えるようになりました。

本校でも今年度から大幅に見直し、運動が苦手でも勝てるチャンスがあったり、仲間と力を合わせて運動に楽しく取り組むことができたような種目を多く設定するようにしました。もちろん、運動が得意!走るのが速い!という子が活躍できる種目も設けています。

今年度の体育大会は、運動をする人も、見る人も、応援する人も、運営する人も、誰もが楽しめる大会になることを目指しています。

主体性

自分の意思や判断において、
責任をもって行動する

二人三脚

スポーツ鬼ごっこ

短距離走

運命走

借り人競走

全校リレー

5色綱引き

学級対抗 SDジャンプ



社会を創る社会人に育ってほしい！

生徒会の総会
生徒大会にて

校則の見直しで培われるコト



昨年度の終わりから生徒会活動の一環として、「校則の見直し」についての取組が続けられていました。

具体的には、「指定Tシャツの扱いやTシャツの自由化」と、「制服登校とジャージ登校の判断基準」の現行のルールを見直すという内容です。

当時2学年(現3年)の学年代表が生徒会本部に学年全体の意見として検討を要請しました。これを受けて、生徒会本部が、臨時代議員会にて学級委員長や常任委員長を招集し、学校全体で検討する運びとなりました。昨年度の最後の生徒大会では、賛成・反対の両意見が交わされ、結論が出ない状態でした。当時の生徒会副会長の〇〇〇〇馬さんは「多数決で決めず合意形成を図った上で決めます。校則の見直しは初めての試みなので、とても大変です。意見を参考に

して持ち帰ります。」との見解を述べ、ひとまず保留となりました。

今年度、この積み残された課題を解決すべく、前期生徒大会にて、本部からの見直し案が可決されました。その内容は…

- ◆一定の制限を設けてTシャツの自由化を認める。
- ◆制服かジャージの着用は各自の判断とすることを認めるが、行事等によっては制服を着用する。

というものでした。

校則の制定は校長によるものとしています。そのため、先日、生徒会長の〇〇〇丹さんと書記次長の〇〇〇香さんから校長室にて校則変更の要望書を受け取りました。これまで生徒会本部を中心に全校生徒が自分たちの生活を改善すべく、前向きで誠実な検討を何度も重ねていたことから、当然のごとく、私はこの校則の変更を認めました。

以上が顛末です。

生徒の手によって「校則の見直し」に取り組むことには非常に大きな意義があります。一般的には、日常生活を見直し、課題意識をもつことで生活の改善を図ることが目的です。今回の取組はそれに加え、人権尊重・法令遵守・主体性・責任感…など(以降、右上参照)、学校生活はもとより、将来の社会生活の礎となることも、

人権尊重
法令遵守
主体性
責任感
多様性理解
公正公平
思考力
合意形成
民主主義
規範意識
当事者意識
協調性
自己理解
他者理解

リアルな経験によって学ぶことができたのではないかと考えております。

「18歳意識調査(6ヶ国調査・日本財団2024年)」によると「自分の行動で国や社会を変えることができると思う」という問いに対して、対象の6つの国の中で日本は最下位という残念な結果になったそうです。校則の見直しを国政や地方行政につなげるにはハードルが高いのですが、今後もこのような主体性・思考力・協調性を高める取組を繰り返すことで、ウチの卒業生たちが、未来の地域社会を創り出すような社会人に育つことを願います。

5月の校長室前掲示板



作：3年特別支援学級